



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

10月号

令和5年 9月29日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「自他の生命と人権を尊重し、
ねばり強くたくましい心豊かな
児童生徒を育成する」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



「自主・自立」の姿勢を育てるためにできること

「与えられたことをするのではなく、
自分たちで考えて 学びを深める」

自主・自立の姿勢を育てるために、子どもたちにこの意義を伝え、話し合い活動を何度も重ね、粘り強く見守る中で、子どもたちは大きく成長できました。

人と人の関わりの中で育つリオ日学の子どもたちは幸せです。

＜オープンデー プレスクールで活躍＞

9月3日（日）、参観日と学校公開日を兼ねて、3～6歳児をプレスクールとして受け入れ、リオ日学の子どもたちが学校探検や読み聞かせ、ゲーム遊びなど保育授業さながら奮闘しました。

7人の幼児が参加し、ある保護者から「子どもたちのチームワークと、日本の教育ならではの日本語を大切にできる力を見せていただいた」と最大の賛辞をいただきました。

＜連邦大交流 工夫がいっぱい！＞

9月11日（月）、日本の文化や言語を学ぶ連邦大の大学生約40名がやってきて交流会を実施しました。

子どもたちは3人組5グループに分かれて自己紹介をした後、それぞれ考えた「福笑い」「すごろく」「ロールプレイ」「坊主めぐり」などを楽しみました。

大学生もブラジル版ハンカチ落とし・命令ゲーム・アニメ紹介・パペットなど、どの教室も笑顔にあふれています。

自分たちで考え行動したからこそ勝ち得た自主・自立の姿勢です。この経験を誇りに、次の機会にも力を発揮しましょう。



